

## 5月定例教育委員会会議録【概要版】

<b>開催年月日</b>	令和5年5月24日（水）	<b>場 所</b>	市役所本庁 災害対策本部室
<b>開催時間</b>	13時30分 から 15時10分まで		
<b>出席者</b>	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、高橋勝栄、甲斐千尋 （※久世由美子委員は欠席）	
	参 与	丸山真二、志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、 工藤靖治、山本栄作、太田康晶、岡田健一、下野隆平	

◎ 議 事

◆議案第3号 延岡市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について

（保健体育課）

- 保健体育課長より、令和5年度末完成予定となっている西階公園の多目的屋内アリーナの使用料等を定めるための条例改正について説明があり、下記の質疑の後、異議なく承認された。

- ◎) 多目的屋内アリーナの規模について伺いたい。  
⇒) 延床面積は約3,600㎡。人工芝を敷き詰めているアリーナ部分は55m×55m。佐伯市の屋内施設とほぼ同規模である。
- ◎) 例えば、ある学校が遠足でこの屋内施設を半日、3時間使おうという申請が上がってきた時、照明は昼間なので不要だが、使用料はどうか伺いたい。  
⇒) 現時点では、使用料は遠足等についても徴収する予定にはしているが、この施設については、幼稚園や高齢者など、幅広い利用を促進している。例については学校行事ということになるので、そのあたりは、この都市公園条例において、市長の判断で減免することも可能となっているので、今後協議していきたいと考えている。
- ◎) 防災拠点施設でもあるので、知ってもらおうという意味でも、できるだけ子供たちの利用を促進する意味でも、スタートしてからしばらくの間は、学校行事でもできるだけ使ってもらおうようなあり方というのを我々としても持っておきたいと思う。

◆議案第4号 延岡市青少年指導員の委嘱について（社会教育課）

- 社会教育課長より、令和5年5月31日で任期満了となる延岡市青少年指導員について、新たに令和5年6月1日からの2年間、指導員を委嘱する旨の説明があり、異議なく承認された。

◆議案第5号 延岡市社会教育委員の委嘱について（社会教育課）

- 社会教育課長より、現在の社会教育委員の任期が令和5年5月31日で満了するため、新たに令和5年6月1日からの2年間、社会教育委員を委嘱する旨の説明があり、下記の質疑・意見の後に、異議なく承認された。

◎) 若い人の考えを入れるという部分が非常に良いと思う。特に大学生が入っているという部分については、私は非常に素敵な考え方だなと思った。こういった大学生を入れようとする考え方について説明をお願いしたい。

◎) この大学生はどのようにして、この社会教育委員の候補者となったのか、社会教育課でこの学生と何か繋がりがあったのか、それとも、大学に依頼して、大学がどういう推薦をしてきたのか、その辺りの経緯も含めて伺いたい。

⇒) この大学2年生については、今回大学生ということでの初めての委嘱になる。社会教育委員に2年間をかけて提言をしてもらうが、そのテーマの中に「社会教育委員会議の充実」ということがあった。以前は委員数が11名だったが、委員の意見として「他市と比べても少ない。幅広い年齢層の人に、できれば大学生とか、地元の若い人に委員に加わって欲しい。」という声が大きかった。このような経緯で今回のような形になった。社会教育に携わっている人は、地元の仕事を終えた人などが多いので、若い人、大学生、保護者等が地域学校協働活動などになかなか参加してもらえない現状があるので、そういう契機にもなればという思いもある。この人は直接関わりがあったわけではないが、こどもセンター事業を協働で実施している九州保健福祉大学の先生に良い人がいないか相談していたところ、本人の了承が得られたところである。大学側もこのような依頼があるのは非常にありがたいと言っており、今後ともこのような形が続けばよいと考えている。

◎) とても素晴らしいことだと思う。

◎) 2年生なので、大学にいる期間、この社会教育委員はずっと継続できるということになる。

◎) せっかく大学生を入れることになるのであれば、積極的に意見を出せるような環境づくりをお願いしたい。

⇒) 現在の議長とも話をして、今まで以上に話しやすい雰囲気でもっと意見を出しやすいような形でやりましょうという話になっている。今の意見も踏まえて、そのような形で、若い人が意見を言えるような、社会教育委員会議でありたいと思っている。

◆議案第6号 延岡市教育支援委員会委員の委嘱について（学校教育課）

- 学校教育課長より、就学前の幼児等についての就学先の審議や必要な支援について調査等を行う延岡市教育支援委員会委員の委嘱について説明があり、異議なく承認された。

◆議案第7号 延岡西臼杵いじめ問題対策専門家委員会委員の委嘱について

（学校教育課）

- 学校教育課長より、延岡及び西臼杵3町におけるいじめに関する調査及び審議を行う延岡西臼杵いじめ問題対策専門家委員会委員の委嘱について説明があり、下記の質疑・意見の後、異議なく承認された。

◎) 教育委員会と同じように、委員が集まって定期的な会議をするのか伺いたい。

⇒) 昨年度は1回会議を開催した。内容については、延岡市・西臼杵3町それぞれにおけるいじめに関する現状の把握や、重大事態は起こっていないが、そのようないじめが起こった場合の対応等について協議及び情報交換を行ったところである。

◎) その結果についての公開の文書などはないのか伺いたい。

⇒) この会議の議事録等については、今のところ公表することとはしていない。

◎) 公表されなかったら、委員会の役割というか、結果がなければ自分たちが知ることはできないが、どういう方法で知ることができるのか伺いたい。

⇒) 資料の共同設置規約の補足に「この規約に定めるものを除くほか、専門委員会の担当する事務に関し必要な事項は、関係市町の教育委員会が協議して定める。」としており、公表等についても、協議して決めていくことになると考えている。

◎) 委員の指摘とも関連する部分があるかと思うので、先ほど最後に課長が説明した別紙1を見ると、第1条の(3)のところに、「法に基づいて、重大事案が発生した場合に」とある。これは先ほど報告があったように、これまで重大事案が出ていないので、この専門家委員会は、定例的に年1回開いて、確認をして、西臼杵・延岡の現状を把握するということしかしていないが、実は主はそれではなくて、重大事態が発生した場合に、その重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うこと。これは内部調査で教育委員会が行う調査ではなくて、この委員たちが調査をしないといけない。そのためにこの委員会が設置されているということで、つまり外部の人

にこういった調査をしてもらった結果がまとめられて、それが報告されるということになるかと思う。ここで質問だが、この5名の委員でこの調査をする。いじめに関しては、これまで子供たちにアンケートをとったり、事実関係のために聞き取りの調査をしたり、これを全部この委員がやって、それをまとめるということまでを委員がするわけだが、こういう事務負担というのはどれぐらいを想定しているのか伺いたい。

⇒) 昨年度の会議でも、そういう重大な事件が起こった場合の役割分担や責任など、この委員会のあり方についても議論をしたところである。この委員会には弁護士や大学の教授にも委員としてお願いしており、今後も引き続き協議をしていきたいと考えているところである。

◎) 多分、想像するに、弁護士の委員が中心となってまとめることにならざるを得ないと。そうなってきた時に、かなり特定の人にこの事務の負担というものがかかってくるが、それに対する報酬というか、それが本当に確保できているかということが全国の自治体で今問題になっている。全国では、弁護士たちは、やっぱりもらう報酬に対してやらなければならない業務・事務が多いし、責任も非常に重いということになってくるので、弁護士がこれからもう手を引かせて欲しいという事態も出てきている。そういった意味では今説明があったように、今回委員を認めてもらったら、今年は委員を引き続きお願いすることになるわけだが、そののところについては我々としても、事務局を中心にまた検討を重ねていかないと、せっかくの人材が逃げていってしまうということにもなりかねないという状態になるかと思う。

## ◎ 協議事項について

### ◆令和5年度定例教育委員会における協議事項について（総務課）

- 総務課長より、令和5年度定例教育委員会における協議事項（案）について説明があった。

### ◆延岡市の学校教育の現状について（総務課）

- 総務課企画調整担当副主幹より、下記のとおり説明があったのち、協議を行った。

○本市の住民基本台帳による年齢別人口をみると、令和5年4月1日現在で、0歳以上14歳以下の年少人口は1万4163人、15歳以上64歳以下である生産年

年齢人口は6万1600人、65歳以上の老年人口は4万941人となっている。グラフで見ると老年人口だけが右上がりになっている。

○令和5年と平成27年比べると、年少人口は2951人の減に対して、老年人口は2013人の増。総人口が1万1844人減少していることから、生産年齢人口の減少がそのまま人口の減少に繋がっていると言える。

○延岡市立学校の現状について、まず児童生徒数は、小学4年生と中学3年生が1000人を超えている。小学2年生は900人を下回っている。現在は本市の小学生在が5846人、中学生が2984人。学級数は小学校が297学級で、中学校が126学級の計423学級。教職員数は、小学校の校長が22人で、教頭が全校に1名配置の27人。主幹教諭や指導教諭が含まれている教員等は329.5人、非常勤講師を含む講師は36.75人。中学校は校長16人、教頭15人、教員205人、講師37人。スクールサポートスタッフや特別支援教育支援員等を除くと、学校勤務職員数は858.25となる。

○児童生徒数について、まず新入学児童数について、今から6年前の平成29年から現在、現在から6年後の令和11年を見ると、6年前から現在で1070人から900人へと170人減っており、また、令和5年4月1日現在の住民登録されている学齢前の乳幼児数から推計すると、現在より6年後の令和11年度はさらに161人減ることが推測される。

○次に、児童生徒数の推移を見ると、6年前から現在で小学校が647人の減、中学校が328人の減。現在より6年後の令和11年度はさらに小学校1012人、中学校439人の計1451人が減ることが推測される。6年後には現在一番大きい南中校区1校分の児童生徒がいなくなると言える。

○最大規模校と最小規模校の比較について、小学校は南小の児童数が677人で28学級、41人の教職員がいる。それに対して浦城小の児童は3人で1学級、4人の教職員がいる。ちなみに、熊野江小が4人の児童で教職員は11人。児童1人当たりの教職員数でも大きな差がある。中学校では最大が南中で生徒は500人で17学級、34.5人の教職員、最小は三川内中で、生徒が12人で2学級、8人の教職員がいる。

○複式学級編制校について、小学校8校と中学校2校の10校が複式学級編制校である。

○学校規模の分類について、学校教育法では「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により、特別の事情があるときはこの限りではない」となっている。学校規模は、小学校5学級以下を過小規模、6学級以上11学級以下を小規模、12学級以上18学級以下を適正規模、19学級以上30学級以下を大規模、31学級以上を過大規模と分類されている。中学校は2学級以下を過小規模、3学級以上11学級以下を小規模、他は小学校同様に分類されている。国の言う適正という言葉はあくまでも標準ということ

である。

○本市では、小学校は複式学級がある8校が過小規模で、8校が小規模、適正規模は9校で、2校が大規模である。中学校は過小規模が2校、11校が小規模、適正規模は3校である。平成23年の学級数が26である南方小は児童数が781名だったのが、12年後の現在は23学級で児童数664名になっている。平成23年の学級数が12であった緑ヶ丘小と11学級であった恒富小が、現在は学級数が6と、学級数と児童数が大きく減っている。一方で、平成23年度は14学級であった岡富小は、現在は15学級に増えている。中学校では、旭中学校が6学級、生徒数が216名であったものが、現在は8学級で236名と、生徒数学級数が増加している学校もある。ちなみに、平成26年4月に北方学園として開設した旧城小、三極小、美々地小校区の児童について、現在は城小校区の児童が7名、三極小は0名、美々地小は5名である。

○本市の面積は868.02平方キロメートルで、面積は九州で第2位、全国では1741市町村中49位。人口は全国で236位、人口密度は980位。学校数は小学校26校、中学校15校、義務教育学校1校の計42校。

○通学距離について、小学校で概ね4km以内、中学校では概ね6km以内という基準を公立小中学校の施設費の国庫負担対象となる学校統合の条件として定めていることから、通学条件を通学距離によってとらえることが一般的になっている。通学時間は概ね1時間以内が一応の目安となっている。本市では、先ほどの基準距離を超えている児童生徒の保護者に対して通学費の補助を行っている。

○スクールバスによる支援策について、令和5年度は北方町が5台で39人、北浦町は2台で47人、北川町が4台で18人の児童生徒がスクールバスにより通学している。

○特認校制度については、豊かな自然環境のもと、特色ある教育を推進している学校を特認校として指定し、保護者及び児童生徒の希望により他の通学区域からの就学を認めているものである。特認校は、黒岩小中学校、三川内小中学校、浦城小学校の5校。

- ◎) この協議は何か結論を出すとかいうことではない。今、学校の規模だとか、通学の距離、それから特認校制度、こういった現在本市が持っている制度や現状を4つの視点で説明してもらった。そんな中で、今日の目的は何かというと、先ほどタイトルにもあったように、「延岡市の学校教育の現状」について、我々の中で議論をしたいと思っている。これはやっぱり延岡市として非常に強みだよねといったところだとか、こここのところは将来のことを考えたときに、考えないといけないポイントじゃないのかといった、そういった課

題や強みみたいなものをあぶり出すのが今日の大きな狙いかなと思っ  
ている。そういった点で意見をお願いしたいが、今の説明の中で意味が  
分からなかったとか、ちょっとここはもう少し補足して説明して欲しい  
ところなどがあるのではないかなと思うので、まずは各委員から質問を  
お願いしたい。

◎) 現状の説明ということで聞いたが、なかなか奥が深いなという感  
じがして、細かい部分までの説明で大変ありがたかった。教職員の  
数について、実学級数と加配数に対しての教職員の配置という部分  
についてはしっかりできているとは思いますが、例えば講師の小数を非  
常勤講師、小数は非常勤講師が例えば0.5とかいう部分がある。そ  
ういった非常勤講師に対しての充当率というものが十分なされて  
いるのかどうかについて伺いたい。

⇒) 教職員の数については、年度当初に県から配当することになって  
いるが、学級数の変動で欠員が生じている。その欠員に対して、学  
校と教育委員会で講師や非常勤講師等を探すことになっているが、  
現在のところは、その定数に対しては満たしている状況である。但  
し、常勤の講師について、これが非常に少なくなっている。学校で  
探しても常勤講師ではなく、非常勤講師だったら可能だという学校  
もあり、常勤講師を探すのに大変な状況ではある。

◎) 新聞等で、なかなか学校の先生が足りないんじゃないかと、教頭  
先生が学担をしているとか、いろいろな報道等もあるが、今のとこ  
ろ、課長の説明では、延岡市ではそういったことは今のところ生じ  
ていないが、本当だったら校務を持ったりとか、学担ができるよう  
な常勤講師では人がいなくて、これを授業だけをする、いわゆる非  
常勤講師だったら見つかるというところで、学校としては、どうし  
てもそうなってくると、学級担任をする人が限られてくるというこ  
とで、非常にそういったところで、苦慮しているという現状がある  
ということであった。質問だが、通学区域「特認校」制度について、  
もし現在の人数が分かれば教えて欲しいというのが一つと、この特  
認校制度を利用している子供たちが、どのような理由でこの特認校  
制度を利用しているのか。そういったことがもし分かれば教えてほ  
しい。

⇒) 黒岩小学校には1名の児童が南方小校区から、三川内小学校に  
は2名の児童が北浦小校区から入ってきている。浦城小学校は0  
名。黒岩中学校には10名の生徒が入ってきており、延岡中学校、  
岡富中学校、東海中学校、西階中学校と土々呂中学校区の生徒が入  
ってきている。三川内中学校は4名が北浦中学校区から入ってきて

いる。入ってきている理由については、子供達によっていろいろな理由があると思うが、悩みを抱えている子供もいると聞いている。

◎) ちなみに、こういった特認校制度を利用して、こういったところに入ってきている子供たちは、今、それぞれの黒岩・三川内小学校、黒岩・三川内中学校では、学校生活に適應して学校生活を送っていると理解してよろしいか。

⇒) そういう認識である。

⇒) この特認校に通学できる条件として、その児童生徒と保護者の意向、まず「児童生徒がこの特認校に行きたい。」、そして保護者も「この特認校に通わせたい。」、そのことが一致した場合に、特認校に入学できるなど、一定の条件で入られるということになっている。

◎) もう一つこの特認校について聞きたい。例えば黒岩中学校について、先ほど10名の生徒がこの制度を利用して黒岩中学校に来ているということだが、黒岩中学校の子供たちにとってこの10名の子供が来るということのメリットというか良さというもの。特認校として転学してくる子供には、先ほど言ったように小規模な中で手厚く教育ができるというところがあったが、元々いた黒岩の子供たちにとっては、この特認校制で10名の子供が来たことは、何かメリットがあるのか伺いたい。

⇒) 黒岩中学校の5月1日現在の生徒数は22名となっている。そのうちの10名が特認校で来ているということになる。元々黒岩中校区に住んでいる子供は12名で、単純に3学年で割ると、1クラス3、4名の状態であった。特色ある教育というのがこの特認校の制度なので、小規模校の特性を生かして、先ほど説明があった通り、本人と保護者が同意して、この学校で学ばせたいと、意識を高く持ってこの学校に入ってくる。今まで3名で授業していたのが6名になるということで、学びの質が高まっているという認識を持っている。

◎) ちなみにこの特認校制度がなくて12名だった場合、黒岩中学校の学級数は何学級になるか。

⇒) 簡単に言うと、複式学級になるので、2学級になると思う。

◎) これが、10名が入ってきているおかげで、3学級になっているという理解でよいか。

⇒) お見込みのとおりである。

◎) 3学級になることで、先生たちの数はどうなるか。

⇒) 確実に1人は増える計算となる。

◎) 中学校の子供たちからすると先生の数が増えるということで、それだけ専門の先生からの授業を受けることができるということに



なる。臨時免許で対応しなくてもできるということで、そういった意味ではこの黒岩中学校は、この入ってきている子供たちのおかげで地元の子供たちにもメリットがあっているということが理解できる。

- ◎) 特認校の場合、通学補助はあるのか。
- ⇒) 特認校の場合、保護者による送迎ということが条件であるので、補助等を行っていない。
- ◎) 保護者も犠牲になって子供と一緒に学校に通う志を持っているということは、やっぱり遠距離通学するものと同じような考え方を持っていて、今後協議していく必要性があるんじゃないかなと思った。
- ◎) 今のようないろいろな意見だとか、考え方を出示してもらうことが今日の目的なので、質問だけでなく、意見も出示してもらえればと思う。先ほど学校規模分布の話があったが、やはり小学校中学校、資料の2、3枚目になるが、かなり学級数の少ない学校が増えているなあと思っている。そんな中でも、特に学級数が1学級若しくは2学級という、完全複式でも学級数が少ない小学校であったり、中学校でも南浦・三川内中学校は、先ほどの黒岩と違って3学年内に学級数が3又は2学級しかないという、非常に小さなスケールでやっている学校がある。特に浦城小は3名、熊野江小学校は4名というふうな小さなスケールでやっている学校があるわけだが、この学校の校長たちが苦勞していること、少人数だから出来ている良さというものと、少人数であるがゆえに非常に苦慮しているようなことについて伺いたい。
- ⇒) 少人数だからこそということで、浦城小学校は3名の児童に対して4名の職員、校長先生、教頭先生、養護教諭、担任で、事務職員もいると思う。手厚い指導ができる。間違いなく大規模校よりは手厚くその子を指導することができるということが良さではないかなと思う。ただその反面、大規模校と違うのは、お互いが助け合っとか、話し合っとか、学び合いの部分がやっぱりできないというデメリットはあるのかなと思う。
- ◎) 去年、その特認校指定で浦城小学校、それから、学校訪問で黒岩小学校、三川内小学校を訪問した。少人数であるがゆえに子供さんの社会勉強というもの、コミュニケーション、子供たちとの間のコミュニケーションというのは、やっぱり市内の小中学校に通っている生徒よりも、そういう面では劣っているんじゃないかなと心配した。それと浦城小学校について、特任校の指定をする理由は何なのかと聞いたら、地元の高齢者の人たちが小学校の名を残したいと、

そういう希望をしていた。子供さんの学校教育に対しては反対という考えはないが、大人がその地域に残したいって希望を聞くのもいいが、やっぱり時代のニーズに沿っていないと。これだけ教職員もそこに職員として派遣されて、少人数の生徒さんを見るというのも、何か事業的には非常にマイナス要因が大きいと思う。それを経営的な考え方でいうと、全くの赤字である。でも教育となると、赤字とかそういうお金の問題ではないとは思っている。でも、特認校指定の時の、その地元の高齢者の希望の「名を残したい」ということを理由として特認校指定をするというのはいかがなものかなというのを感じた。

- ◎) 今日の現状の中で、今委員が指摘されたようなことは、今後我々としても整理をしていかないといけないことなのかなと受け取った。先ほど小規模校の子供たちはやっぱりなかなかコミュニケーション能力が育っていかないんじゃないかというところあたり、A委員はA施設にいろんな学校の子供たちが来るのではないかなと思うが、大規模校の子供たち、小規模校の子供たちの中で何かそういったことを感じる瞬間などはあるか。
- ◎) やっぱり少人数だと、どうしても周りの多様な意見を聞きづらいというような部分がある。それによって自分の考えに反映させていくということが、少人数だとちょっとできにくいというような感じがする。やっぱり大人数の学校ということであれば、小グループを作っても結局6名から7名の小さいグループができる。それだけでも、例えば7名だったときには6名の子供たちからいろいろな意見を聞いて自分に反映して自分の意見を出せるという部分があるので、やはりそういったものにおいては、やはりその小規模校の子供たちの一番のデメリットというのはそういうところにあるのかなという感じがする。
- ◎) 報告を聞いて、数字で現れるとやっぱり本当に実感する。結局今、教育委員会で、子供の数が少なくなりながらも、特認校も含めて、そういう対策とか、どうしようかっていうことを毎年考えていくわけだが、人口流出に関して、やはり市全体でしっかり、もうこれ以上減らないようにするっていうことを本当に考えていく必要があるんじゃないかなと思った。先ほども言われたように、浦城小学校を訪問した時に、やっぱりよくありがちなその学校の賑やかさというか、キャーキャーっていうそういう声さえ聞こえないっていうことが、さっき言ったコミュニケーションだけでなく、大人になっていく過程の中で、人数が少ないことで何かが出来ていないとか生ま

れていないということも、また見えない部分も含めてあるのかなど実感している。

- ◎) 今、委員からこうして数字で見ると非常にまた違った印象ではなくて、非常に話が具体的になるという話があったが、やっぱりこうやって数字を見ながら、我々も議論をしていく必要があるのだなど、今の話を聞きながら思った。ちょっと余談になるかもしれないが、この間体育大会で3つの学校に行った。三川内小学校は一貫校なので小中合同での大会であった。当然9年生、中学3年生が中心となってリーダーが団長となって、小学生までもやっていく。ただ、人数的に非常にコンパクトな中で、地域の方の競技などもあり、私も来賓で、久しぶりに団技に参加したが、そうやって地域ぐるみで子供たちを育てていこうという、いわゆる守られているという意味では、本当にアットホームで、こんな学校もあるんだな、これはこの中で子供たちも成長するんだなっていうのを感じた。その日、その後今度は恒富中学校に行ったが、恒富中学校では3つの団に分かれて、まさに生徒会主体の体育大会であった。団長を中心に応援合戦が本当に盛り上がっていて、そしてその中で涙を流す子供がいたり、喜びを本当に素直に表現する子供たちがいて、PTAの副会長さんが最後に子供たちに挨拶した言葉が印象的だった。「感動した。君たちのそういったまとめてやっていこうという、そういう熱気を我々に勇気をもたらした。」ということを感じたと。やっぱりこの大規模の、大きなスケールの中で子供たちが掴み取るものもあるんだなど。同じ日にこの2つの学校を見たときに、どちらにも良さがあるなと思ったところであった。本当にこの問題は難しいんだろうなと思う。この学校をどうやっていくのか。10年先、持続可能に、このままこの数字が維持できるという確約があればいいのかもしれないが、先ほど人口の推計なんかもあったが、それが本当に可能なかどうかということあたりも踏まえて、我々としては、今から着手しておかないといけないことも出てくるのではないかなど思ったりもするが、そういった意味でいかがか。

- ◎) 前回、学校と地域の人達の結びつきについてどういうふうにしたらいいのかっていう協議があった。2週間ほど前、A町の地区の運動会があった。A町は結構家庭数が多くて、高齢者クラブの人たちが中心になって、A小学校の体育館で開催されたが、主に来ていたのが高齢者の人たち、そして保護者の人たち、小学校に通っている子供たちが多かった。地区で盛り上げようと思ったら、今からは高齢者っていう時代になってきているので、やっぱり地区の高齢者が

どれだけ貢献するかというのが地区を盛り上げていく、そして子供たちを教育していく、そういうキーポイントを持っているんじゃないかなと思った。すごくいろんなことで、地区の人たちが交わって感動することも多かった。このコロナで4年ほど人が接触することはなかったが、そういう時代がまた再到来してきて、次の人たち、子供たちがまた交わって何かができるようになるといいと思った。

- ◎) 非常に鋭い指摘だと思う。まさに、延岡市が進めようとしているコミュニティスクールっていうのは、今、委員の指摘等に通じるところがあるのではないかなと思った。以前にはなかったこういういろんな新しい仕組みも今できている。こういったものを最大限活用しながら、ではどんな学校教育のあり方がいいのかっていうことは、短時間で結論が出るわけではないと思うので、継続的に、こういうふうに協議を重ねていきたいと思う。最後になるが、次回のこういった機会のために、先ほどやっぱりデータがあると非常に話が具体的になるという話があった。もっとこんなことをデータで整理してもらえないかという要望がもし今あれば出してほしい。なければ、また会議が終わった後でも、またいつでも結構なので、言ってもらえるとありがたいと思うが、いかがか。
- ◎) こうやって学校のこの別紙の表を見ていて、教員1人当たりの子供の数っていうのはどれぐらいなのか、平均するとどれぐらいになるのかなという部分。適正規模の学校で、それを平均としてとれば、1人当たり何人というのが分かれば、適正規模の学校と比べられる。そういうものがあると、小規模、過小規模の学校を今後どうしていったらいいのかなと、また大きい学校については、例えば少人数学級をすとかいう場合に、指導力、指導方法を工夫してあげないといけないのかなとか、そういうような今後のあり方も出てくるのかなと思いつつこの別紙の表を見ていた。
- ◎) 大切な視点である。なかなかデータ化しにくいところもあるかもしれないが、可能な限り、またデータ化していただくとありがたい。
- ◎) 生徒数が減っているのも、無くなっている部活とかもあると思う。各学校での部活数とか、僕らの時代にはすごくたくさんあって、その部活動で学ぶことがたくさんあったと思う。その辺も分かるとまたいいのかなと思う。
- ◎) これも大事な指摘である。これも今、部活動の地域移行という部分で、学校教育課でまたまとめるかと思う。そういった各課のデータもまたここで一緒にしていきたいと思う。

◎) 毎日6時半に出て会社に通っているが、これは先生だろうなど思われる人を見かける。特に、岡富中学校では、もう6時半には多分先生が来ていると思う。窓が開いている。西階の方に行くと、南方小学校、間違いなく小学校の先生だと思う。今、先生たちの働き方改革っていうのがあって、随分と勤務時間というものが短縮、低減化されようとしている。でも、あのように朝早く学校に行く先生たちが結構いる。自分がいつも興味を持つのは何かというと、なぜそんなに早く学校に行くのかということを知りたいし、先生方の心構えとか、教育という心構えとかを知りたい。校長会もあつたり、教育委員も5人いるので、学校訪問の時に先生たちと協議して、いろいろ意見を聞きたいなというのはいつも思う。生徒、保護者だけではなく、任される先生たちの責任っていうのはとっても重いと思う。保護者は地区でもPTA活動もなくなった。親子会もなくなってきている。そういう中で先生たちに任せるなら、先生たちから任せられた責任、こういうのを聞いてあげるのも我々の仕事ではないかなと思う。

◎) 教員の働き方改革も、直接子供たちにとって、とても影響のある話だと思うので、今の委員の指摘もまた次回協議したい。また、どういうデータになっていくかということもそうだが、学校訪問時に、できるだけ時間をとって、先生たちの現状といったことも掘み取るように私たち自身もしていきたいと思う。こういった時間につなげるようなデータの整理をまたお願いしたい。

◎ その他

◆ 6月定例教育委員会の日程について（総務課）

- 6月定例教育委員会については、6月19日（月）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（15：10）